

「第 2 回分子科学若手シンポジウム」

の開催報告

上智大学理工学研究科理工学専攻 博士課程後期 2 年 村上 龍大

1. はじめに

我々「分子科学若手の会」は、分子科学に関心を持つ若手研究者の研究活動を推進し、親睦の機会を設け、分子科学の発展に寄与することを目的として活動する団体である。そして毎年、分子科学若手の会夏の学校を運営してきた。夏の学校とは、全国の分子科学に関心を持つ学生が、講師の先生方と寝食を共にしながら最先端の研究課題について基礎から応用まで体系的な学習をし、尚且つお互いの研究テーマについて理解を深める濃密な研鑽の場であり、「分子科学若手の会」の目的そのものである。2013 年度の第 53 回分子科学若手の会夏の学校は、分子科学研究所(分子研)及び岡崎コンファレンスセンターで開催され、本夏の学校開催中に、夏の学校参加者及び分子研所属の大学院生等の若手研究者による専門を超えた相互理解をさらに深めるための「第 2 回分子科学若手シンポジウム」を同時開催した。本シンポジウムは、分子研の平成 25 年度共同利用研究（前期）「若手研究会等」の支援のもと開催されたので、こちらについて報告する。

2. 第 2 回分子科学若手シンポジウム

本シンポジウムには 73 名の方が参加された。内容としては、以下の講師による講演と、夏の学校参加者の中の 42 名によるポスターセッションが行われた。

1. 渡邊 祥弘 助教（九大院理）「4 成分相対論量子化学計算」
2. 吉田 紀生 准教授（九大院理）「液体の統計力学」
3. 宮島 謙 助教（東大院総合文化）「多元素金属クラスターの基礎と生成方法そしてその応用」
4. 山田 剛司 助教（阪大理）「固体表面における分子科学」
5. 叶 深 准教授（北大院環境科学）「非線形振動分光法による界面分子構造の研究」

最先端で活躍する 5 名の講師の先生方に講演をしていただいたことと、全国から集まった夏の学校参加者及び分子研所属の研究者によるポスター発表を介したディスカッションができたことにより、非常に濃密で、充実した時間を過ごすことができた。

3. まとめ

本稿では分子研で開催された夏の学校と同時開催の「第 2 回分子科学シンポジウム」の活動報告を行った。来年度の夏の学校については、京都大学工学研究科マイクロエンジニアリング専攻量子物性学研究室（立花研究室）の学生（若手の会事務局代表：博士後期課程 1 年 福田 将大）を中心に鋭意準備を進めている。「第 54 回分子科学若手の会夏の学校 講義内容検討会」の開催について、分子研及び諸先生方のご支援をいただきたいと思います。

以下に写真資料を示す。



写真 1 渡邊先生ご講演の様子



写真2 吉田先生ご講演の様子

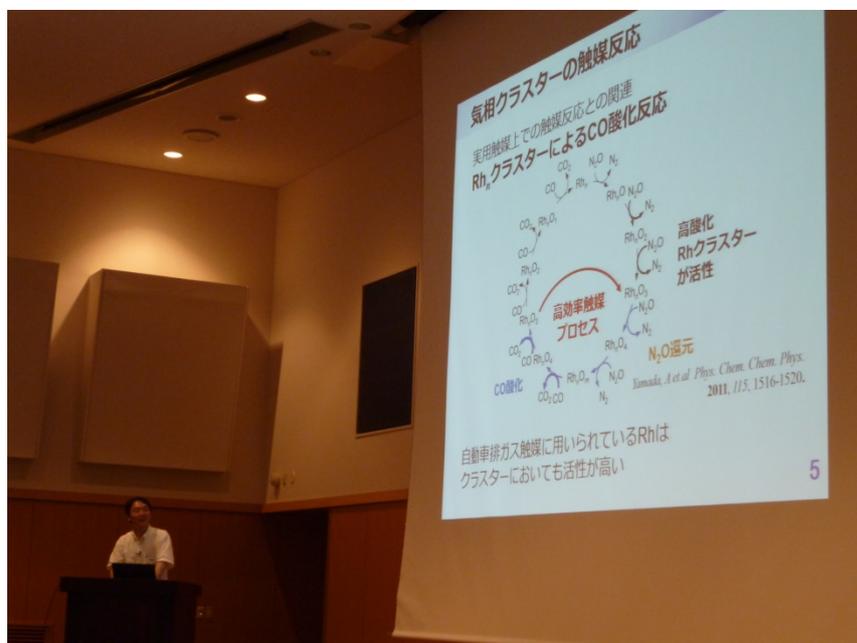


写真3 宮島先生ご講演の様子



写真 4 山田先生ご講演の様子



写真 5 叶先生ご講演の様子

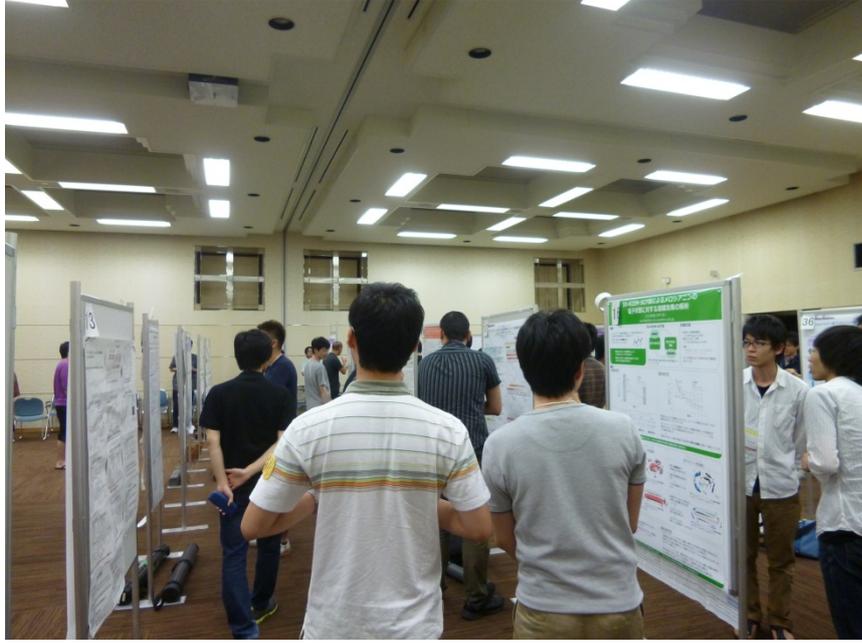


写真6 ポスターセッションの様子



写真7 全体集合写真